

5 月 定 例 教 育 委 員 会
会 議 録

1. 招集年月日 令和6年5月16日（木）
2. 招集の場所 織田幹雄スクエア
3. 開会（開議）令和6年5月16日（木）9時30分宣告
4. 出席者

教育長 森山 真文 委員 林 孝 委員 米丸 禎宏
委員 大野 美恵子 委員 竹岡 美佳

5. 説明のため出席した者の職氏名

教育次長 新藤 正敏 学校教育課長 小村 孝広
教育指導監 立田 春美 主幹 高木 和希
生涯学習課長 森原 知美

6. 職務のため出席した者の職氏名

係長 平田 裕子

7. 議事日程

- 第1 会議録署名者の指名について 米丸委員
- 第2 承認第1号 臨時代理の承認について
- 第3 承認第2号 臨時代理の承認について
- 第4 報告協議第18号 学校経営計画について
- 第5 議案第10号 海田町社会教育委員の委嘱について

第6 議案第11号 海田町スポーツ推進委員の委嘱について

第7 議案第12号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択基本方針について

第8 報告協議第19号 年間スケジュールについて

第9 報告協議第20号 令和5年度小中学校卒業生の進路状況について

第10 報告協議第21号 生徒指導上の諸課題について

第11 報告協議第22号 各行事の開催及び結果等について

8. 議事の内容

9：30開始

○教育長（森山） それでは5月教育委員会会議定例会を始めます。本日の会議録の署名は米丸委員にお願いいたします。本日の議題は、お手元に配付のとおりですが、議案第12号、令和7年度使用中学校教科用図書の採択基本方針につきましては、非公開としたいと思います。非公開の理由ですが、安芸郡教科用図書採択地区の採択事務に関する規約において、情報公開の時期を広島県教育委員会が文部科学省に対し、広島県内全ての採択地区における採択結果を報告した後、とすることが定められておりますので、議案第12号を非公開とすることにつきまして御異議ございませんでしょうか。

（全委員から異議なしの声）

○教育長（森山） それでは異議なしと認めまして、議案第12号についま

しては非公開とします。それでは議事に入ります。順番を少し入れ替えておりますが、第4の報告協議第18号、学校経営計画についてを議題といたします。各小中学校から説明をさせていただきます。では、海田小学校から1校5分程度で説明をお願いします。

○海田小学校長（西村）海田小学校3年目を迎えました、西村康子です。

よろしくお願いいたします。お手元に学校経営計画、学校要覧をお示ししております。抜粋して説明させていただこうと思っております。

海田小学校学校経営理念を、今年度も「心と心が響き合う学校」、学校教育目標を「感性を磨く」と設定し、気づき、考え、行動する海小っ子の育成を目指して参ります。今年度は海田西中学校区3校での、昨年度までに積み上げてきた探究的な学びに道德教育を加え、研究を進めてまいります。1週間に1回程度、中学校の道德推進担当が、高学年にTTとして入り、連携を深めていく予定です。今年度のキーワードは、「声に出す」です。様々な教育活動を声に出すことで繋げ、教育効果を上げていきたいと考えています。まず、確かな学力、気づく子の育成についてです。振り返りを活用して、価値あるものに気づく子を育成するために総合的な学習の時間、生活科、国語科に加え道德科を重点として、振り返りを生かした授業づくり、授業改善を行っていきます。声に出す活動として、音読、歌唱、振り返りを通して、言語化したものを書くことに繋げていく、そういうことも考えております。定着の難しい児童や特性を持つ児童も一定数おりますが、通級

指導教室を設置していただいていること、2・3学年にコグトレを取り入れていただいておりますので、そこで学び方を学ぶことができるよう適切に運用していき、その考え方を広げて授業づくり、ドリルタイムなどの個別指導にも生かしていこうと思っております。次に豊かな心、考える子の育成についてです。対話と協働を通して考え、自分や人を大切にすることができる児童を育成するため、コミュニケーションツールとしての声に出す活動、挨拶、その日本一を目指した挨拶運動を行っていきます。朝の挨拶運動の担当学級が活動の目当てを話し合い、前日に校内放送で全校に伝える。活動後に振り返り、やはり放送で全校に伝えるという取組も継続して行っていきます。本校は地域班ごとに集団登校をしたり、縦割り班掃除や遠足などの活動をしたりする異学年交流を実施する中で、児童の多くは高学年に憧れを持っています。さらに委員会活動を充実させて、互いの良さを認め合う活動を多く取り入れていきます。今年度は、委員会同士も声を掛け合い、コラボレーションしていく予定です。これらを道徳的实践力を発揮させる特別活動と位置付け、声に出し、自分達で決めるということも進めていこうと思っています。また、不登校SSR推進校として、スペシャルサポートルーム「あおぞら」の運用と保護者連携、関係機関連携により、長期欠席、不登校児童の登校日数の増加、特別支援学級及び通級指導教室への入級、所属学級への登校とそれぞれの児童に応じた手立ての成果が、少しずつですが、出てきております。さらに、全

教職員で特別支援教育の充実を行っていき、学級経営、授業経営に生かしていきます。次に「健やかな体、行動する子の育成」についてです。体験活動を通して、心と身体が健康な人を育成するために、学級タイムやロング昼休憩などを取り入れて、外遊びを推奨しています。加えて、外遊び推奨期間を設け、体力アップ貯金カード、外遊びポイントカードを用いて、体力づくりの継続を図っていきます。ここでも友達と誘い合う、ルールを決めるなど、声を出すことが重要になってきます。遊びの中で多くの学びがあると考え、子どもたちが自分たちで解決できるように促したり、見守ったりしています。元気に学校に来ることのできる児童の育成としては、生活リズムカレンダーで、規則正しい生活習慣の確立に向けた取り組みを実施していきます。最後に「信頼される学校について」です。教職員は臨採を含め、年齢、経験年数のバランスがよいと思います。担任層には経験年数の浅い者がいることから、メンター機能を発揮させ、主任層、特に学年主任の役割意識を高め、さらに互いに支え合う、学び合う風土を育てていきたいと考えています。海田町では先ほども申しましたように、通級指導教室、スペシャルサポートルーム、特別支援学級を整えていただいております。それらが軸となって、児童を多面的に見て支える教員が、互いに指導や取組について話をする枠組みを作ってください、それが醸成されてきていると捉えています。確実に実施、連携することで組織的な動きとなり、今取り組んでいることや起こっていることについて、

全教職員が認識しながら進んでいると実感しておりますので、今年度も取組を継続しながら、人材を生かし、声に出す活動、またその声をしっかり受け止めることで、さらに組織を活性化させながら、子どもに力をつけていきたいと考えております。以上でございます。

○教育長（森山）西村校長先生ありがとうございました。それでは、海田東小学校の齊藤校長先生お願いします。

○海田東小学校校長（齊藤）海田東小学校校長の齊藤です。2年目になりました。よろしくお願いいたします。海田東小学校の子どもたちは、表裏のない、素直な子どもらしい児童が大変多いです。様々な小さなトラブルや行き違いは毎日ありますが、課題のない学校はありません。何も起きないのが良いのではなく、何かがあった時に、どのように解決したかが大切であり、このことが職員の成長や子どもたちの生きる力に繋がると考えています。さて、お手元の学校経営計画を御覧ください。経営理念は昨年度同様、笑顔・あいさつ・思いやりを大切にし、海田東小学校で学んでよかった、と言える夢と志のある学校づくりです。その下にある、目指す学校像、児童像、教職員像も変わりはありません。また、学校教育目標も昨年度と同じです。今年度変更した点についてお話をします。研究主題は「主体的、協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成」と昨年同様ですが、副題を「個別最適な学びと協働的な学びの場の充実」に変更しました。昨年度は、副題を児童の考えをつなげ考える視点を焦点化させる、発問の工夫として、教

師の発問に焦点を当てて研究を進めました。今年度は、今日的なキーワードである「個別最適な学びと協働的な学びの場を工夫、充実させることにより、自分の考えを深める児童の育成」に迫りたいと思います。もう1枚の研究構想図を御覧ください。本校は令和3・4年度教育課程実践検証協力校の指定を受け、算数科の「データ活用領域」を柱とした教育課程編成に取り組み継続する中で、令和5年度広島県教育奨励賞をいただきました。令和6年度は、算数科の授業づくりを中心に学習規律の徹底、支持的風土のある学級集団を母体としながら、ICT機器の効果的な活用をさらに進めます。電子黒板やタブレットを駆使し、児童一人一人が自分の考えに沿って学習を進め、学んだことをアウトプット、また友達の学びをインプットすることにより、自分の考えを深めることができるよう、授業を展開していきます。こうした授業研究を、特に中堅や若手教員の授業提案によって進めていきます。多くの若手教員がいる本校の学校現場では、一見、学校にとって弱みとも思える若手教員の多さが、この一人一人の授業力を向上させることで、学校の実質強みに反転すると考えます。本校は今年度、5・6年生で算数科の教科担任制も行っています。授業を中心に教育活動を充実させ、子どもが通ってよかった、保護者が通わせてよかった、さらには教職員が勤めてよかったと思える学校を目指します。職員を束ね、保護者や地域の皆様のお力をお借りして、全ては子どもたちのためにということを心に留めて、学校経営を進めていきます。以

上でございます。

○教育長（森山） 齊藤校長先生ありがとうございました。それでは、海田西小学校の出元校長先生お願いします。

○海田西小学校長（出元） 皆さん、おはようございます。海田西小学校校長の出元です。4月に赴任し1ヶ月半が経ちました。どうぞよろしくお願いいたします。資料は、学校経営構想図と学校評価表の1枚ものと学校要覧でございます。私は学校の使命を、予測不能な未来社会で生き抜く力を育てることだと考えております。学校経営構想図を御覧ください。経営理念、信頼される学校とは、安心・安全で児童が自己表現できる学校と考えております。経営方針、関わりきることを通して、今年度の学校教育目標、夢と志を持ち、より良く生きようとする児童の育成を具現化してまいります。この学校教育目標は、自分の将来を見通したその時々々の夢、すなわちなりたい自分を持ち、現状に満足するだけでなく、さらに成長していこうとする前向きな生き方ができる児童を育成する、ということです。すてきな西っ子、「す」素直な子になろう。「て」手を挙げて発表しよう。「き」気持ちのよい挨拶をしよう。「な」何事も最後までやりきろう。を目指す子ども像として取り組んでいきます。そのための学校経営の基本姿勢は、次の3点です。1つ目は、図の中央に記してあります、学校の主役は子どもである、ということです。全ての教育活動において、本当に子どもに必要なのか、誰のための活動か、子どものためになっているだろうか、

といったことを意識して進めてまいります。2つ目は、これまでの本校の実践のたすきを繋ぐことです。ここに記している活動を、目の前の子どもの実態に応じ積み上げていきます。3つ目は、心理的安全性が保障される風通しのよい学校風土を醸成することです。裏面は、今年度の評価指標資料になります。1番下の黄色い箇所、昨年度は「子どもと向き合う時間の確保」の評価基準が、他の項目と比べ落ち込んでおりました。学校要覧の方にも記していますが、本校は3年生以外が単学級で、全て児童数30名以上、特別支援学級は2学級、ともに、3つなどの複数学年の複式です。教員1人が、自分の担当を一手に引き受けるのではなく、この目指す教職員像にありますように、ワンチームとしての動きができる内部組織を工夫し、多面的な児童理解、支援や校務分掌の円滑で柔軟な運営を可能にしていきたいと思います。研究主題は、西中校区3校共通です。本校は学びの変革を進化させていくため、次の3つを重点に取り組んでいきます。重点1は、道徳科の研究推進です。道徳的価値の理解をもとに、自己を見つめる発問の工夫を通して、授業改善を図っていきます。重点2は、本校の財産である、「N I E」や探究的な学習、読書活動の推進をしていき、持続可能な学習にしていくことです。毎週そのような、N I Eタイム等の活動は設定をしております。探究的な学習については、その成果を踏まえ、今年度の児童実態に即した改善を加えていきます。重点3は、スペシャルサポートルーム推進校としての取り組みです。相互授業の

支援と特別学級や通級の指導を関連付け、職員の連携を深めることで、個別最適な学びをより児童の実態に合うものにしていきます。海田西小学校に赴任して、複数の地域の方から、いろいろなことで協力出来ますよ、というような温かい言葉をいただいております。これからさらに、地域の皆様と繋がり、開かれた学校を作っていく所存です。教育委員の皆様、今後とも御指導をよろしくお願いいたします。以上でございます。

○教育長（森山） 出元校長先生ありがとうございました。それでは、海田南小学校の石川校長先生お願いします。

○海田南小学校長（石川） おはようございます。海田南小学校校長の石川です。どうぞよろしくお願いします。資料は学校経営計画と学校要覧を出しております。学校要覧を御覧ください。在籍児童数が記してありますが、今年度は700人を超えております。今後も増え続けていき、来年度は5・6年も学級数が増加する予定です。大規模な学校です。それでは、学校経営計画を御覧ください。学校教育目標は、考え、実践する海田南っ子です。めざす児童像としては、MKM学ぶ子、気遣う子、認め合う子をスローガンとし、知徳体のバランスのとれた児童の育成、中でも相手と折り合いをつける児童を育てようとしています。確かな学力は、児童の実態把握を大事にしていきます。研修を生かして、日々の授業の充実を目指したものとしています。健やかな体は、外遊びの充実を進めています。校舎からグラウンドが遠いという

話になりますけれども、ドッジボールコートのポイントを増設するなど、ささやかではありますが、取組を進めております。このコートは活用されていると思います。自律した心、生徒指導面では先ほどの気遣う、認め合うを大切にして、自他を認め合う活動により、児童の自己肯定感を高めていきたいと思っております。そのためにも、児童を多面的に理解するために、教科担任制や組織的な生徒指導を取り入れています。信頼される学校では、何と言っても、教職員の姿が大事になっています。子どもを愛することと、笑顔と挨拶を大事にするということに心がけています。保護者の方からのクレームや相談とかいろいろありますけれども、ほとんどは子どもが嫌な気持ちで家に帰った時や怪我をして帰った時が原因となっております。愛情に裏打ちされた指導をすることで、子どもが笑顔で家に帰る、これを日々繰り返すことが、信頼される学校だと考えております。その他、目指す教職員像として、互いを思いやり、協働する教職員を記しております。様々な理由で、学級を空けざるを得ない状況がありました。教科担任制を取り入れて機能している高学年は、かなりの空き時間があります。しかし、これは純粋な空き時間ではなく、何かあった時には学級の補教に入ったり、また支援をしたりするという時間と位置付けています。支援する方は、教職員として当たり前の仕事をしていて、支援される方は、当たり前ではなく有り難いことだという思いを持って、その気持ちをお互いに言い合うことにより、日頃からコミュニケーションを

取ることができ、それが気持ちよく働くことになり、学校の大きな力になると考えています。また人材育成の面では、今年度挑戦したことがあります。昨年度までは、保健主事と学年主任、それから研究主任と学年主任、このようなセットで1人に任せておりましたが、今年度は分けております。ベテランの教務主任のもとで、同じ学年を含む若手の学年主任を育てていくということで、5年目、6年目を学年主任に持っていきっております。こういうことで、人材育成を図りながら業務改善を行っていこうと思っております。先日、娘と話をしていて「お父さんの学校は、協調性ばかり目指していて、それでいいのか」と言われました。私のような個性的な子どもをどう育てるか。その中で、私もこの前PTA新聞の取材で、どのような小学生でしたか、と聞かれまして、自分自身も立ち歩いて、黒板に向かって説明することがあったり、小学校1年生の時は出席番号1番だったのですが、「待っていなさいよ」と言われたのに、体育館で遊んでいて先生に怒られたという経験があります。そのような中で、自分自身もそういう個性を生かしてもらったなという思いがあります。職員には我慢させるのではなくて、この個性が生かされ活躍できる学級にしていこうという話をしています。この学ぶ子、気遣う子、認め合う子は進化させていきたいと考えております。今後とも御指導よろしくお願いいたします。

○教育長（森山）石川校長先生ありがとうございました。それでは、海

田中学校の河北校長先生お願いします。

○海田中学校長（河北）海田中学校校長の河北光弘です。今年度で5年目になりました。本校は学校要覧のみですが、1枚めくっていただくと学校経営計画を記しております。5年目になりましたので、気持ちを新たにやっていきたいということで、海田中学校のスクールカラーは紺ですが、今年度は若葉の緑へ全面的に学校要覧の色を変えました。少しでも、変化が見られたらと思います。まず、生徒の状況からお話しします。右側の学級編制についてです。本校518名で今年度スタートしております。特別支援学級の生徒が13名です。そのうち知的が4名、自閉症情緒が8名、肢体不自由が1名になります。さらに通級指導に通っている生徒が15名おります。加えて外国籍の生徒が14名おります。さらに要対協に情報をあげている生徒が12名おり、本当に多種多様な生徒がおります。ずっと考えているのですが、集団になじめない生徒にとっては、本当に学校は苦痛でしかないのではないかと思います。でも、これを一人一人が輝ける学校にしたいと思っております。そのような中で、本校の生徒の課題としましては、集団になじめない生徒が様々いるということ、また学力の差が大きいことです。通常学級で一斉授業を行うと、やはりついていけない生徒ともう諦めてしまっている生徒がおります。それから、日々の様々な問題が起こりますが、その起因になっているのは、この人間関係を作るのが非常に苦手な生徒たちです。そのような生徒の状況がございます。裏面

を御覧ください。本校の職員の構成状況ですが、町費県費と合わせて、現在60名の教職員で進めております。この中で、県費負担教職員の教諭が30名います。そのうち臨採が6名、任期付が1名で、5分の1強が本務者ではありません。さらに20代教員のうち、本務者が6名、臨採が3名おります。そのうち、大学卒の初任者が4名おります。さらに、30代が9名、40代は本務者が1名、臨採1名の2名です。50代は本務者ゼロ、臨採1名です。今年60歳になる教員が4名、さらに60歳以上が5名という学校です。その中で、想像されていると思いますが、若手教員については、非常にモチベーションは高いけれども、スキルがなくうまくいかないことがあります。ベテランは、スキルは高いけれども、モチベーションをどう保っていくかとか、あるいはさらに挑戦していく気持ちをどのようにつけていくかということを非常に悩みながらやっているところです。加えて、6年以下の教員は11名です。教職経験が6年以下の者が11名、これらの者は4年経つと初任者は異動していきますので、また新しい者が入ってくるという状況が、ずっと続いております。そういった実態がある中で、今年度生徒指導では、暴力行為、いじめ、不登校の目標を挙げました。暴力行為につきましては、昨年度10件でしたが、今年度は5件に抑えたいと思っております。いじめにつきましては、昨年度8件認知しております。8件が多いか少ないかということもありますが、今年度は10件を目標値にして、小さいいじめも見逃さずに認知して取り組んでいくように考

えております。不登校につきましては、昨年度は29人でしたが、今年度は何とか19, 20人を下回りたいと思っております。そういった目標を立てて今年度スタートしているところです。それでは、裏面の学校経営計画で今年度の取り組み、またこれまでと変更した点について説明をさせていただきます。考え、実践する～自律・尊重・挑戦～はこれまでと変わらずです。目指す生徒像も一緒なんですが、その下の気づく、磨く、表すところは、昨年度は育成したい資質・能力というふうに書いておりましたが、今年度は資質・能力を発揮させる場面の設定ということで、先生方が意識して教育活動を作っていくというような目安になるように少しタイトルを変えております。重点項目につきましては、重点1・2・3とありますが、1が授業改善推進、2が生徒指導の充実、3が自己肯定感を高めるための体験活動等の充実になります。重点1の中で、今年度加えたところが、2つ目の丸の、学力の定着の1行目です。ねらい、構造的な板書、振り返り、これを改めて加えました。当たり前のことなのですが、やはり若手の教員が多いということと、電子黒板が入ったことによって、板書がやはり物足りないです。生徒は板書をノートにとって、そのノートを持って自学をしていきますので、自学ができるノートづくりのためには、構造的な板書というのは当然必要になりますので、改めてこれを1番目に持ってきております。主体的な学びの推進のところでは、気づく磨く表す、場面の設定ということで、先ほど申したとおりです。そういったこと

をきちんと意識をして、教育活動を作っていった欲しいということで、これを入れております。重点2、生徒指導につきましては、組織的な動きが大分できてきたかなと思うのですが、3つ目の丸の特別支援教育の充実というところが、1番の課題だというふうに考えております。今年度は、特別支援推進委員会を定期的に、月1回きちんと持って話し合うということと、特別支援学校から、訪問の教育相談をしていただけるので、通常学級の方に一日入っていただいて、その中でアドバイスや助言を定期的に受けていくというような取り組みを進めているところです。3点目は、1番最初の丸の1番下の段に、生徒主体の学年集会の充実ということで、学年集会を何かあれば必ず行いますが、そうではなくて、生徒の自主的な活動でできるような、学年集会を充実させていきたいということで、これを新たに今年度入れたところです。研究主題につきましては、タイトルは昨年と一緒ですが、副題については、昨年度は道徳の発表をしましたので、道徳を入れていましたが、今年度はやはり授業づくり、基本に返ってというところで、発問の工夫ということを入れております。先ほどからずっと言っておりますが、やはり集団になじめない生徒、いろいろな背景がある生徒、また先生方も家庭の状況などありますけれども、そういった生徒も安心して何事にも挑戦できるような学校づくりをしていきたいなと思います。先生方が自ら考えて提案した内容については、しっかりと挑戦させていきたいなと考えております。そういった姿を見せることで、

安心して挑戦する生徒が育てられるんじゃないかなと思っております。

そのように令和6年度スタートしているところです。以上です。

○教育長（森山）河北校長先生ありがとうございました。それでは、最後海田西中学校の松本校長先生お願いします。

○海田西中学校長（松本）海田西中学校の松本でございます。中学校勤務3年目になります。分からない中で2年が経ち、中学校はこういう面白さがあり、こういう難しさがあるんだなと実感しているところでございます。お手元の資料は学校要覧と学校経営計画でございます。まず学校要覧を開いていただいて、真ん中のところに今年度の職員一覧がございます。こちらは教育委員会の御配慮をいただき、教諭が大体20名ぐらいの学校になるのですが、昨年度までは2分の1ぐらいは臨採でございました。しかし、この度の新任の先生が2名、育児休業から戻って来られた先生ということで、そういったものが解消されて、今のところ臨採が2名、任期付きが2名で4名ということになります。5分の1が臨採の方という形で、かなり学校としては安定してきたなっていうのを本当に日々感じているところでございます。この要覧の裏面ですけれども、生徒数をお示ししております。本年度は全校生徒が232名です。本来であれば2年生は、1年生の時に3クラスであったんですけれども、急な転校、そして別の学校への進学ということがありまして、79人の2クラスになった訳なんですけど、少しずつ西中の方に人数が増えてきていて、微増というようなところで推移している

ところでございます。小学校からも詳細な引継ぎをしていただいているので、不登校生徒や集団になじみにくい子どもたち、そういった生徒に対しても教員がその内容を理解して、個別の対応をしっかりできている状況です。1名、県立教育センターのスクールSに通っている生徒がいたのですが、今、学校に登校しています。週1回スクールSに行く日もあるんですが、野球部に所属しており、野球部の活動に出て行くことで、ちょっとずつ、新しい場面や場所に馴染めて、自分のできることは一体何かを見つけているところです。やっぱりそういったところをどんどん増やしていけるように、私も含めて先生が支援できたらなと思っているところです。学校経営計画を御覧ください。学校教育目標は変えておりません。これは本当にシンプルなもので、あまり背伸びし過ぎないということで、こういった表現にさせてもらっています。ただ、常に先生方が子どもたちに声をかける言葉、丁寧にんさいよ、これ続けるんよ、といったことも確認しながら、とにかくこれを言い続けましょうということで、学校教育目標にしております。それを踏まえて、海田町の夢未来ビジョンに繋がっていけばいいなと思っているところです。4本柱の方では、今年も重点を書かせていただいておりますが、全部赤字にさせていただいているのが、今までの2年間を振り返って、やり直さなくてはいけないというところをこの度変更した点でございます。1つは学力の方では、バックワードデザイン、と洒落た言葉を書いています。これは逆向き設計の授業をし

ましようということです。ゴール姿が見えていないと、何をやっても行き当たりばったりになりますよね。目指す姿を先生がしっかり持って、それを目指す授業展開、授業の開発をしていきたいと思いますということを言いました。あとは、ある大学の講師の先生に言われたことなのですが、中学校の先生は結構知識が豊富で、伝えたいことが山ほどあり、その知識の量と子どもたちの理解の乖離が結構あって、知識を教えたり、山詰めにしちゃうよね、という話を聞きました。その先生に教えていただいたことは、そういった知識もあるんだけど、そういったものと、教科学力が日常生活にどう結びついていくのか、そういうような、意識を持って課題を設定して子どもたちに与えて、教科学力と日常生活を繋げていくかが大事なんじゃないかというようなお話をいただいたので、先生方にはそういったところを意識した授業を作っていて、10月に研究公開がございますので、そちらで御覧いただけたらと思っているところでございます。あともう1つ、私もそうなんですけれども、話し過ぎて、子どもが思考する時間を奪ってないか。無駄なものは、極力省かなければ駄目と言われました。まさに仰るとおりで、50分の授業の中でずっと延々としゃべる先生がおられます。これでは子どもたちの思考や伸びを測れないというようなところで、やっぱり無駄を省いていきたいと思いますというような話をさせていただいてるところです。次に、豊かな心ですが、この度道徳の加配をいただいて、TTという形で道徳をやらせていただき、またこの先生

には、小学校の方にも出前授業に行っていて、小学校の先生と配慮のいる子どもたちの情報を共有しながら、よりよい道徳のあり方を探っているところでございます。こちらも公開研で、中学校ではあるんですが、TTの道徳というところで、また御覧いただけたらなと思っていますところでは。健やかな体です。1番は体力の向上です。全国平均が8つ出るのですが、ほぼ全ての項目について下回っています。西中はものすごく低いです。ということで、今回はここに力を入れていくということで、部活に入っている生徒とそうではない生徒との差はとても大きいですが、まずは授業のところで、いかに運動量を確保するか、そういったところが大事なところになりますので、このような形で個に応じた課題設定と支援、あとは運動能力調査を今からやっていくわけなんです、それを1回で終わらすのではなくて、もう1回年のどこかでやって、と2・3度繰り返してみようというような話をしています。小さいPDCAをくるくる回して、その定着はどこまでくるかというところで、子どもの体力を伸ばしていきましょうという話をしていますので、今体育の先生にお願いしているところです。最後です。信頼される学校ですが、教職員の健康管理ということで、昨年度非常にお休みが多い状況が続いていたのですが、全体的に見ると、時間外勤務の平均は35時間程度です。かなり前進はしているのですが、ただ削っていく中で、先生が果たしてきっちり満足いく業務をできているかということと、時間の削減がとても難しいバランスとな

っています。削ったら削ったとしても、満足できてなく、早く帰ったのはよかったが、何か物足りないとかですね、そういうようなところがあるので、学校の業務をできるだけ削減して、必要でないものは、スクラップしているのですが、そろそろ限界が来つつあります。先生方が本当にやりたいことを十分にできるような、そういった組織づくりをしていかないといけないかなと思っています。本当に人によって偏りがありますので、押しなべて35時間で収まっておりませんが、突出している人とうまくマネジメントしている人の差が大きいところも課題なので、組織としての業務の平準化を図っていかなくてはならないと思っています。それから研究テーマについては、海小と西小でお伝えした通りでございます。赴任当時からずっと思っているのですが、今年度も私は、停滞は後退だと思っていますので、新しいことに今年も挑戦して、ちょっとずつ前に進めていけたらなと思います。以上でございます。

○教育長（森山）松本校長先生ありがとうございました。先生方6名に学校計画をもとに話をさせていただきましたので、各委員の皆様から御意見、御質問ありましたらいただきたいと思います。いつもは林委員に最後まとめをいただいておりますが、今日は林委員からお願いしようと思いますが、よろしいでしょうか。よろしくお願いします。

○委員（林）先生方はとうとうとお話されていましたが、練習してきましたかみたいな問いかけをしたいなと思いました。実際に、自分のフ

ローになっていると練習しなくても、多分、日頃から先生方や子どもたちに話をされていることを、ここでお話しされたんじゃないかな、と思いながら聞いていました。とうとうと流れると、今どこをしゃべっているのかなと思って、ちょっとつかえながら話してくれたほうが頭に入りやすいのにと思ったりもしました。特に本当に出てきた言葉がお忘れでないといいなと思ったのは、特に子どもを主役にするとか、子どもが学ぶとはどういうことなのかなということを考えた時に、言葉尻を捉えるわけではないですが、先生方が、させる、というような表現を使っていないかな、ということに気がしながら、見たり聞いたりしました。それは余りなかったんですが。余りなかったというのは、何か所か引っかかったのですが、それはそれぞれ自問していただけたらと思います。でも、実際に安全とか心理的安全性という言葉は、私も去年使わせていただきましたけれども、大分そういうのが浸透してきたのかなと思います。実際に子どもと向き合った時に、3歳の孫がいるのですが、その子を見てると自分がやりたいと思ったことをすぐ禁止すると、暴れるんですよ、3歳児が。なぜなのかなと思った時に、そこできちっと、どうしたんか、ていうことを聞いてやらないといけなかったんだろうなと思いました。おさるのジョージ、分かりますか。自分と同じぐらいの大きさのものをずっと持ち歩いてるんですけども、腹を立てて帰って、それをボンと投げつけて置いて帰りました。お兄ちゃんが保育所から帰って来て、持って帰ってあげてね、

と家内と一緒に持って行ったら、それをお兄ちゃんが持って帰ったもんだから、またそれを持って、我が家まで来てボンと玄関に放り投げたんです。なぜか分からんでしょう。子どもの言い分は後でよく聞いてみると、自分がちゃんと持って帰りたかったのに、お兄ちゃんが持って来たので腹が立ったということでした。寝る時にはそれがないと寝れないものですから、お母さんと一緒に取りに来ました。何かそういうふうな言い分というのは、こっちが分かってるようなつもりでいても、分からないものだと思いました。先生方はベテランでしょうから、その中でどういうふうに受け止めて、先生方は自分が忙しく、こうしたい、ああしたいと思ってる時に、子どもが何か言うことを聞かないと思ってしまうと子どもに寄り添えないのかなと毎年、毎日のように反省しております。そういう面でも、もう一度見直していただけたらなと思います。

○委員（林）子どもなりにそれぞれ自分のことは、いいことしか家では言わないと思うんですけれども、学校で気になることがあったら、そう言って教えてくれるのかなと思いました。そういう面では、子どもたちが学校の中で、どんなふうに過ごしてきたのかなということが、非常に保護者の関心事だろうと思いますし、そのことも間違って伝わるかもしれないので、先ほども話がありましたが、笑顔で子どもを帰すというのが大事だなと思いました。これは自分が校長の時の経験なんですけど、子どもを嫌な気持ちで学校から帰すと、ずっと引きずるんで

す。だから、子どもたちが気分よく帰れるようにする。何かあった時には、すぐに保護者にこういうことがあったので、叱りましたとか注意しましたというようなことを連絡して、了解を取ること。それは区切ることでなくて、子育てのパートナーとして保護者を尊重することだと学びました。どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

○教育長（森山）ありがとうございました。米丸委員お願ひします。

○委員（米丸）西小学校以外の校長先生は何年もいらっしゃるので、自分の思いが出ていると思います。今年入られた方、よそから異動された先生もやはり同じような思いを持っていたいて、児童生徒に接していただければなと思います。ただ、働き方改革は非常に難しいので、やっぱりそこは、校長先生の思いもでしょうけれど、やっぱりみんなでもうそれをやらないとどうにもならないというところで、進んでいただければと思います。協力できることがあったら、協力していきますので、よろしくお願ひします。

○教育長（森山）ありがとうございました。竹岡委員お願ひします。

○委員（竹岡）去年、林委員さんから何度も聞いた心理的安全というお話が校長先生からもあったので、この心理的安全をキーワードで話をさせてもらいたいと思います。心理的安全というのは、生活していく中で、本当に大切なものだと思います。これがないと声を出すとか声に出すとか、そういうこともできないだろうし、ある程度折り合いをつけるっていうのも、自分が認められてる感じがないと相手を認める

ことができない。それがあってやっと引くことができ、折り合いをつけることができると思うので、カウンセリングをする中で、心理的安全はとても大事だと思うんですけども、これを相手に感じてもらうことは、とても難しいことで、何度も何度も会って、いろいろやって、こちらも失敗したりしながら、だけでもう1回そのやり直しをして、お互いの気持ちのやり取りをして、何とかお互いで心理的安全というものを作っていけるというものなので、なかなかこれを子どもたちに作ってもらうのは難しいことです。健康的な子どもたちであれば、少しの働きかけでできたりします。心理的安全というのは、1日5分でも10分でも持つことができれば、1人の人と関係を作ることができたら、この心理的安全の幅っていうのは広がっていくと言われています。最初はそんなに大きなことではなくても、1日一声かけて少しでも感じてもらえると違ってきます。心理的安全は伝播するとも言われています。私が心理的安全を感じていたら、他の人にも伝播すると言われています。先ほど校長先生方が練習をしてきたかのようにお話をされましたが、もしかしたら、心理的安全を感じにくいところで話をしなくてはいけなかったというのものもあるのかもしれない。それは、こちら側の環境作りの問題もあるのかもしれませんが。子どもたちに心理的安全を感じてもらうためには、先生たちが心理的安全を感じながら授業できる。そのためには、校長先生方が1番その心理的安全を感じるような状況であることがとても大事だと思うので、まずは校長先生方御

自身のケアをしっかりしていただきながら、1年間やっていただけたらと思います。それから、話し過ぎる話なんですけど、私もよくやってしまいましたが、よくあることです。先生方の話し過ぎると発育での話し過ぎるは少し意味が違うかもしれませんが、話し過ぎる時には、こちらの不安とか自分の気持ちに焦点が当たっている時には、話し過ぎてしまう。この今ある沈黙が耐えられない。やっぱり自分の不安とか相手にどう思われているんだろうというときに、やっぱり話し過ぎてしまう。それが授業中に起きた時に、先生方が自分の気持ちをきちんと把握しながら話し過ぎている分はいいのだけれども、自分の気持ちを何か感じれないまま何となくの気持ち、不安とかがあるのに話し過ぎてしまうというのは気をつけなくてはいけないと思います。子どもたちが今、この沈黙とかこの時間で何をしているのか、思考を遮らないという話があったと思いますが、この時間は思考して欲しいんだとか思考している時間なんだっていうことを意識しながら、話すことを少し抑える時と話す時とそういうコントロールができたらいいいのかなと自分自身の実感も込めて話をさせていただきました。以上です。

○教育長（森山）ありがとうございました。大野委員お願いします。

○委員（大野）まとめは無理ですので、ただ、感想だけを言わせてください。停滞は後退というふうに言われたんですけど、そのとおりだなと思っています。どの学校の校長先生方も、昨年と違うところを必ず説明してくださいました。一步前に前進するんだなと思って期待を込

めて1年間しっかりと見ていきたいなと思っています。まとめることはできないんですけど、実は教育委員の皆さんのお話を聞いていて、最近思うことがあるんです。地域の小さい子どもから90代の方と接する機会がすごく多くなったんです。そうすると、なかなか自分の思いが伝わらないんです。相手の心が分からないので、どこに焦点をあてた言葉を返すのがいいんだろうというふうに、いつも迷うことがあるんです。小さい子どもに99歳のおばあさんのお話はできないですから。人生経験を踏んだ方、どんな体験をされたのか、そういうものをずっとバックに見ながら、どんな話をしたら、この方にずっと腑に落ちてもらえるのかなというような感じのことを最近考えるようになったんです。そして、本屋さんに行って、言葉、という本をたくさん見つけるようになったんです。どんな言葉を返すのかというのがすごく大切だなと思いました。校長先生方の中に、こうだよね、ああだよね、そうだよね、という迷いの言葉。聞きながら、そして相手の思いを聞き取りながら、どんなバックでこの子は何を考えているのだろうというようなことを大切にしましょう。と言われたのが、すごく感動的で、海田町の子どもたちがどんな感じで育つかなって、楽しみにしています。皆さんの言われた心理的安全という言葉も、本当にもう1年キーワードにして、先生方、子どもたち、児童生徒を育てていただきたいな、というふうに思います。その子どもたちの宝が、いずれ成人し、そして、その地域に住む人々の宝になるわけですので、どうぞよろし

くお願いいたします。

○教育長（森山） ありがとうございます。学校経営計画を基にですね、今年1年のいろんな取り組みを話していただきました。東小学校は先月教育委員会会議が終わってしまったんですけど、これから先、各学校を回らせていただく時に、この中身がですね、いかに具体化されて、どのように子どもたちに伝わって成長していつているかというのが散りばめて見ていただけたらいいんじゃないかなあというふうに思っております。4月1日の研修の中でもですね、キーワードを話させていただいたんですけど、その中にいろいろ言った話がですね、この中にもう既に入っていて、例えば海小でいうと、声を出す、という話を、あの時は音読の話もしたと思うんですけども、そういう話の中にですね、やっぱり、声を出すことの充実というところを取り上げてやってもらったり、東小でいうと、やっぱり子どもたちにしっかり考えさせる、考えを深めるというところの部分だったりですね、あと、西小に至っては子どもが主役ですよとかですね、そういうふうなところも話をさせていただいたり、南小はですね、MKMという新しいキーワードができていますね。

○海田南小学校長（石川） 去年からです。

○教育長（森山） 去年からでしたか。南小はJ A Kの印象が強かったんですけど、石川校長先生になって改めてしっかりここを土台にしてという話もされましたし、海中については、あそこまで数値をきちっと

入れるっていうことはもう全部頭に入っておられるということですよ。3年目を迎えて充実させる中学校を目指してということで、松本校長先生の話だったり。あとはですね、これがいろんな事業具体の中で、先生方が共通の理解を持って学校運営に関わっていくかということが、まず第1ですね。ひとり歩きしたり、絵に描いた餅にならんよっていうのが1番学校経営計画の大切なところと、これに加えて、子どもたちが理解すると強いですよ。1年生は1年生の言葉で、今何をするかが自分のどう成長に繋がっていくかということを理解すると、子どもたちって、目的がはっきりしたときにすごい頑張りますよね。そこら辺の姿がやっぱり1年間のいろんな活動の中で見えてきたらいいかなあというふうには思っておりますので、今後また訪問させていただいた時に、具体の姿を見せていただけたらと思っております。本日はありがとうございました。

○教育長（森山） それでは、よろしければここからは議題に戻りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 それでは日程に従いまして行きます。承認第1号、臨時代理の承認について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤） それでは、承認第1号、臨時代理の承認についてを説明いたします。資料2ページをお願いします。海田町教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条の規定により、町職員の人事異動についての決定を、緊急を要する案件で、かつ教育委員会の会議を開催

する暇がなかったため、教育長が臨時に代理しましたので、同規則第4条の規定により、教育委員会会議に報告し承認を求めるものでございます。以上で説明を終わります。

○教育長（森山）承認第2号も同じような案件でございますので、続けて説明をお願いします。

○教育次長（新藤）それでは、承認第2号、臨時代理の承認についてを説明いたします。資料5ページをお願いします。海田町教育委員会教育長に対する事務委任規則第3条の規定により、町職員の人事異動についての決定を、緊急を要する案件で、かつ教育委員会の会議を開催する暇がなかったため、教育長が臨時に代理しましたので、同規則第4条の規定により、教育委員会会議に報告し承認を求めるものでございます。以上で説明を終わります。

○教育長（森山）何か御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山）この体制で1年間やっていきますので、よろしくお願いいたします。異議なしと認め、原案のとおりといたします。よろしくお願いいたします。それでは、次にまいります。議案第10号、海田町社会教育委員の委嘱について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○生涯学習課長（森原）それでは議案第10号、海田町社会教育委員の委

嘱について、御説明いたします。資料 9 ページをお願いします。この度の委嘱につきましては、スポーツ少年団本部長、スポーツ推進委員会、校長会からの推薦により学校関係者からの委嘱をお願いするものでございます。候補者として提案するのは、資料 9 ページに掲載しておりますように、4 名でございます。任期は、承認された日から令和 8 年 3 月 31 日です。以上で説明を終わります。

○教育長（森山）はい。4 月にも承認案件があったかと思いますが、全部で 8 名ですか。

○生涯学習課長（森原）8 名です。

○教育長（森山）8 名になります。その都度、新たに継続または新任承認ということで、今月承認いただくようになっております。最大何名でしたかね。

○生涯学習課長（森原）20 名以内です。

○教育長（森山）20 名以内ですね。今回、切れをもって大きく人の入れ替えをしておりますので、随時ということになるかと思います。何か御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山）異議なしと認め、原案のとおりといたします。よろしくをお願いいたします。それでは、次にまいります。議案第 11 号、海田町スポーツ推進委員の委嘱について、を議題といたします。事務局から引き続き説明をお願いします。

○生涯学習課長（森原） それでは議案第 11 号，海田町スポーツ推進委員の委嘱について，御説明いたします。資料 11 ページをお願いします。

スポーツ推進委員につきましては，現在 14 名で活動しておりますが，新たに 1 名委嘱するものでございます。任期は委嘱の日から令和 8 年 3 月 31 日になっております。以上で説明を終わります。

○教育長（森山） スポーツ推進委員はこれで何名になりますか。

○生涯学習課長（森原） 15 名です。

○教育長（森山） 14 名から 15 名ですね。1 名増えて。先日，スポーツ推進委員の委嘱の会があって，参加させていただいたんですけど，結構な歴史があるんです。そもそもスポーツ推進法の中に根拠があって，スポーツ推進委員を町で任命してということみたいで，会長は 30 年ですか。会長されてというか，会長職はそうではないんでしょうけど，入られてから 30 年と。34 歳ということで，世代交代も含めてすごく期待をさせていただいたらと思うんですけど，昔の，このスポーツ推進委員ができた頃とは，ちょっと時代背景が変わってきているので，なかなか難しさもある。昔みたいにコンビニ的にね，スポーツとか体力づくりの場があるわけではなくて，そういうイベント活動とか，町での活動を中心に，地域の方がスポーツされてたっていうのが前提なんでしょうけど、今ちょっと変わってきてますけど。何か御意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山）異議なしと認め、原案のとおりといたします。よろしくお願いいたします。

（議案第 12 号）

○教育長（森山）次にまいります。報告協議第 19 号、年間スケジュールについて、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）報告協議第 19 号、年間スケジュールについて、御説明いたします。資料 14 ページをお願いします。年間スケジュールについて、教育委員会に報告するものでございます。本件につきましては、各課長から御説明いたします。

○学校教育課長（小村）学校教育課でございます。資料 15 ページと 16 ページの 2 枚を御覧ください。こちらについては、主な学校の行事と職員を対象とした研修等々を上げさせていただいております。研修につきましては、ほぼ昨年度並みの研修を組ませていただいております。大きく増えているのはですね、4 月 3 日に第 2 回コグトレオンライン研修というのが入っていると思いますけども、今年度、新しくコグトレの方ですね、小学校 2・3 年生を対象に行っておりますので、この研修会が年に 3 回と連絡会が 3 回、こちらが計画の中で増えているというような状況でございます。それから、教育委員の皆様にご参加していただく内容で御説明をいたします。毎年 8 月に行っております、授業力向上研修、について、こちらが 5 日月曜日に、この織田幹雄スクエアで予定をしております。詳細については、御案内をさせていただ

きます。資料 16 ページを御覧ください。10 月 11 日金曜日，海田中学校区の公開研究会です。今年度は海田南小学校が会場校となります。

18 日金曜日，海田西中学校区の公開研究会です。海田西中学校が会場校となります。同じく 10 月ですけども，26 日土曜日，中学校文化祭が予定をされております。両中学校でございます。それから，飛びますけども，3 月の予定です。こちらは，予定ということで見ていただきたいんですが，2 日に中学校の卒業式が入っておりますが，実は先ほどですね，校長先生から情報をいただいて，公立高校の入試の関係で，いつにするのがいいのかということなんですけども，今年度の日程が2月の 26，27，28 日ということで，合格発表がですね，3 月 11 日ということになりそうだということです。そうすると，学校としてはですね，恐らく 3 月の 8 日か 9 日，このあたりが 1 番可能性としては高くなると思います。2 日に入れておりますけども，恐らく 8 日か 9 日のあたりにですね，変更になるんじゃないかなと思います。それから，小学校が入っておりませんけれども，これも予定としてですね，19 日水曜日で調整を進めているということです。こちらも予定でございまして，そのように考えております。以上でございます。

○教育長（森山）中学校はここ数年ですね，入試改革があって，第 1 日曜日ということで予定として入れているんですが，ちょっと状況が変わってきていますね。

○学校教育課長（小村）そうですね。

○教育長（森山）合格発表が第1週だったんですけど、変わってきているので、もしかしたら、確かにもとに戻して第2土曜日みたいな感じのイメージになるのかもしれませんが、8日が濃厚かもしれません。

○学校教育課長（小村）そうですね。8日が第一候補です。

○教育長（森山）小学校はあまりそういう行事等はないので、ほぼほぼその通りにいくのかなと思います。

○委員（林）8月5日の研修の時間は分かりますか。

○学校教育課主幹（高木）午後から行う予定になっております。今回は特別支援教育のことについて研修をします。

○教育長（森山）あと説明がなかったんですが、1月9日にこども議会がありますので、よろしくお願いします。続きまして、生涯学習課からよろしくお願いします。

○生涯学習課長（森原）生涯学習課から御説明いたします。資料18ページをお願いします。9月22日に織田幹雄スクエアにおいて、けんみん文化祭民謡・民舞の祭典を開催します。こちらは県内各地から選ばれた民謡・民舞の愛好団体による演技が発表されることとなっております。続きまして、資料19ページをお願いします。先ほど小谷館長から話がありましたが、今年度は旧千葉家住宅の座敷棟が建築250年を迎えるにあたり、年間を通じて様々な催しを開催することとしておりますが、特に11月22日から12月3日の秋の特別公開では、体験イベントやライトアップなどを計画しております。続きまして、資料20ペー

ジをお願いします。1月12日に織田幹雄スクエアにおいて、二十歳のつどいを予定しております。続きまして、2月1日のおんかつコンサートですが、こちらは公共ホールを拠点とした、身近で親しみのあるクラシック音楽の公演事業として、昨年度はバイオリンとピアノでしたが、今年度はチューバとピアノのコンサートを予定しております。生涯学習課からは以上です。

○教育長（森山）千葉家のイベントについては、今年はいろいろな形で開催されますので、もし可能であれば、顔を出していただけると有り難いです。それから、エクシモンが今年度からなくなりましたので、おんかつの一本化をしていきます。何か御質問はございますでしょうか。主な行事につきましては、また直近に御案内をさせていただきますので、よろしくをお願いします。それでは、次にまいります。報告協議第20号、令和5年度小中学校卒業生の進路状況について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○学校教育課主幹（高木）報告協議第20号、令和5年度小中学校卒業生の進路状況について、御報告いたします。資料22ページを御覧ください。小学校から御説明いたします。海田町内中学校への進学者合計は276名となっております。海田町以外の公立中学校への進学者は4名です。これは転出になります。国立、県立、私立中学校への進学者は30名でございます。次に、中学校の状況を御説明いたします。高等学校への進学者は241名、高等専門学校3名、特別支援学校2名、進路

未決定3名となっております。詳細は資料23ページのとおりでございます。割合を見ていただきたいんですが、公立の全日制が、昨年度に比べて1.8パーセント増、私立の全日制が、昨年度に比べて4.3パーセント減となっております。進路未決定者については、2名です。以上でございます。

○教育長（森山）ただいまの説明につきまして、何か御質問がございますでしょうか。

○委員（大野）民生で家庭訪問をすることがあるのですが、本当に背景が様々で、誰がどうとはなかなか言えないんですが。ただ、生活していく上で、どういう見通しがあるのかっていう意味では、行政と繋がるってということもいずれにしても要るんじゃないかと思っています。

○教育長（森山）学校は子どもたちとのコンタクトはとれてるんですね。

○学校教育課主幹（高木）はい。この関係機関と学校と。

○教育長（森山）子どもたちとも学校は会えていますか。

○学校教育課主幹（高木）はい。会えています。母親とも会えている状況でございます。

○教育長（森山）こども課とか福祉関係との会議には上がってはいないんだよね。

○教育指導監（立田）はい。要対協にはこの子たちは上がってきていないんですが、今、お聞きしてそうだなと思いました。こども課と連携

ができますので、情報提供をしてみようと思います。

○教育長（森山） 新藤次長，中学校を卒業した後の何かフォローって，福祉事業で何かあるんですか。

○教育次長（新藤） さっき言われたように，わかば療育園とかに繋ぐぐらいしか，福祉部門でっていうのはない気がします。

○委員（大野） 孤立してしまうんですね，家庭が。民生委員もそう入れないし，福祉委員もそういう立場ではないので，個人的に家庭に入ることができないのですが，民生委員は戸を叩くことができるので。でも，やっぱり専門的にどういう状態にあるのかっていうのを知らないと動けないですね。だから，やっぱりそういう部局との連携がこれから要るような気がします。もっと少し世の中が変わってくれるといいのですが。

○教育長（森山） こども課へ情報提供して，できることとかですね，連携の糸口を掴むとかですね。ちょっとそこは。進学に関しては，少し公立が戻ってきていますけど，やっぱり海田町は相変わらず私学が強いです。国際学院高校が町内にありますし，校舎がきれいだったり，いろいろありますので，その影響も確かにあるのかもしれないです。あとは，中学校に行くところでの進学者ということが，やっぱり多少あるので，その部分もやっぱり公立の中学校としては，義務教育の一環で見ていく中で，魅力的な中学校をやっぱり作っていかないといけないのかなっていうのがこちらの責任かなあというふうな感じで

すかね。

○教育長（森山）では、よろしいでしょうか。それでは次にまいります。

報告協議第21号、生徒指導上の諸課題について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○教育指導監（立田）報告協議第21号、生徒指導上の諸課題について、教育委員会に御報告するものでございます。資料の25ページを御覧ください。今年度4月末の暫定値をお示ししております。小学校から御説明をさせていただきます。暴力行為は1件というところで上げております。中学校は暴力行為が2件、いじめが2件ということで報告がきております。それから、4月ですので、不登校の人数はゼロになっております。昨年度末、小中学校合わせて、72名の不登校児童生徒が計上されておりましたが、そのうち18名が改善傾向ということで、4月が終わった段階ですけれども、登校ができるようになっております。それを継続するために、まずは現状維持ということで、もっともっとということを求めずに、よく来たね、頑張ったねというところから、見守りを続けているところです。それから、居場所としてSSRが各校にありますけれども、そこだけではなくて、日本語教室が居心地がいいのであれば、日本語教室にしばらく行って、気持ちが収まったら教室に行こうねとか、そういうふうな声かけをしています。それから、先ほど魅力ある学校づくりということも出てきていたんですけれども、居心地のよい学校、居心地のよい学級の風土づくりっていうことを努

めているというような報告も聞いております。それから逆に、不登校にはまだ4月ですので、計上されていないんですけれども、4月の欠席が既にもう10日以上になっている児童生徒については、24名おります。この全てが昨年度から不登校として計上されている児童生徒でございます。この児童生徒についても、保護者との連携は必ずする。けれども、保護者に圧をかけて、学校に対して、もう本当にもうやめてくださいとか、シャットダウンというようなことになってはいけなないので、保護者のお考えを聞きながら、思いを大切にしながら連携をする。そして、児童生徒とも関わっていくというようなことを中心に、取り組みを続けているというようなことでございます。報告は以上です。

○教育長（森山）4月のグラフなのでちょっと読み取りにくいんですけれども、先ほどの後半であった報告が主だと思います。特に、昨年度は不登校が本町においても増加傾向にあって、その部分はいかに食い止めるかということで学校に対してはですね、先ほどあった改善傾向の18名だったかな。

○教育指導監（立田）はい。

○教育長（森山）この子たちが来年の3月まで、何となく学校に位置付いて、頑張ってきてれるようになるという取組を、息切れをしないように、4月はやっぱりテンションが高くなるので、最初頑張って通うんですけど、そこから息切れをし始めるのが、5月ぐらいからなんです

よね。それが息切れをしないような、たまには息抜きしてもいいよとか、休んでもいいよ、ということも含めてでしょうけれど、30日という目安でいけば、増やさないということと、新たな不登校児を生まないということですかね、そこがやっぱりキーになってくるから、不登校についてはですね。それから、昨日、全国町村教育長会総会の報告を聞きに行ってきたんですけれども、いじめの重大事案の認知件数というか、認めた件数がですね、もう過去最高になってるところです。今年度の現時点で、1つは本当に闇に隠れていた部分が、露出してみたら、かなりひどい事案で、それが、けがとか命に関わったり、もう出席が不可能だったりという状況になることと合わせて、懸念されてるのは、やっぱり保護者の方が学校との関係が悪くてですね、過剰に子どもたちに対して、学校の対応に批判をして、それがやっぱりいじめと相まって、学校への不信感から来れなくなるということがやっぱりあると。それが重大事案に繋がっていくと、このような状況が報告をされておりました。町において、学校に言ってるのはやっぱり、子どももそうですけれど、保護者の方のまず話をしっかり聞くとかですね、寄り添うというところをしっかりとしないと、時間をかければ解決できることが、もう感情的にもつれてしまっただけで、どうにもならないというような状況にもなっていくしますので、その部分は特にですね、丁寧にやっぱり入り口のところをやっていないといけないなと思ったのが、昨日の行政報告でした。今後、特に不登校それからい

じめの認知についてはですね、丁寧に扱っていかうかなというふうに
思っております。何か御質問がありますでしょうか。

○委員（大野）少し学校のことから離れるんですけれども、今、子ども
会という活動が地域でないんですよ。ほとんどなくて、横の繋がり
というのが、最近なくて、縦の繋がりもプツンと私たちの世代から切
れている状態の地域社会になっているんですね。これはどうにもなら
ないんですよ。どうしたらいいのかなと思ったら、会う機会を増やす、
そして、言葉を交わす。最初は挨拶だけでもいいんだけど、少しづ
つ何でもいいんですよ、少しずつサッカーの話でも野球の話でもい
い、少しずつしながら、やっぱり繋がりを持っていくということが、
先ほど教育長さんが仰られた、繋がりを持つということになるような
気がします。その繋がりはどうやって持つのかは、一方的にこうしな
さいとか、こうしたらいいじゃなくて、その人の背景や育った環境と
は何なのかというのを、やっぱりそういういろんな目で見えていかな
いと、一律には引っ張ることは難しいなと最近つくづく思うんです。
そういう意味においても、いろんな背景、いろんな経験をしながら、
育ってきている子どもたちをやっぱり汲み取っていくというのは、す
ごい大変だと思うんですが、会話をしながら、一つの言葉を交わしな
がら、汲み取っていくというのが特に大事なことだと思います。

○教育長（森山）学校の中でもやっぱり希薄だったり、PTAもなくな
っていて、ちょっと社会的な繋がりが切れている状況はあります。子

どもたちの対応も含めて、管理職の方よろしく申し上げます。よろしいでしょうか。それでは、次にまいります。報告協議第22号、各行事の開催及び結果等について、を議題とします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）報告協議第22号、各行事の開催及び結果等について、御説明いたします。資料27ページをお願いします。各行事の開催及び結果等について、教育委員会に報告するものでございます。本件につきましては、各課長から御説明いたします。

○学校教育課長（小村）学校教育課でございます。資料の28ページを御覧ください。まず5月の行事でございます。30日木曜日、広島県市町教育委員会連合会定期総会が予定されていたと思います。教育長外となっておりますが、教育長が代表して参加させていただきますので、教育長のみということで、よろしくお願いいたします。それから、25日土曜日に小学校の運動会、6月1日に中学校の体育祭、机上に御案内をさせていただいておりますので、よろしくお願いします。それから、6月13日木曜日の教育委員会会議定例会が海田東公民館となっております。以上でございます。

○生涯学習課長（森原）続きまして、生涯学習課です。資料の29ページを御覧ください。まず5月の行事につきましては、明日5月17日から6月6日まで、第4回織田幹雄書道展の巡回展をふるさと館で実施します。次に、6月の行事につきましては、写真展「千葉家の四季」を

6月11日から7月4日まで、海田町役場で実施することとしております。生涯学習課からは以上です。

○教育長（森山） はい。よろしいでしょうか。何か御質問がありますでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山） 議事は全て終了となりますが、これ以外に皆さんから御意見はございますでしょうか。

（全委員からなしとの声あり）

○教育長（森山） それでは5月の教育委員会定例会を終了いたします。ありがとうございました。

11：37 終了